



このオルガンは次の3点から成ります。

- 1 リコーダー8本
- 2 本体 タッパーとリコーダーを載せる台
- 3 ビーチボール
- 4 ポンプ

リコーダーは指孔が左になるように本体にセットしてください。

タッパーを開けて中の仕掛けを見てみましょう。したじきのキーを押すとタッパーの中の弁が開くのが見えませんか？



ビーチボールを使わず、ポンプを直接繋げても音が出ます。写真のように手で押さえて下さい。この時はポンプを動かしている時だけ空気がタッパーに送られます。何か曲を弾いてみましょう。

音を出さずに空気を送り続けるとタッパーのふたの部分が内部の圧力で外れます。そのときはふたの部分を閉めてください。



今度はビーチボールを間に入れましょう。ビーチボールに空気がいっぱいになるまでかなりの労力を要します。

ビーチボールに空気がいっぱいになったら音を出してみましょう。今度は音は連続してでましたか？

研究しよう！ 一番下のドと、一番上のドは音が出にくいですね。風圧低い時に下のドの音は出やすいです。逆に風圧を高めると、上のドは出やすくなります。なぜでしょう。リコーダーは一本で1オクターブ以上の音を出しますが、内部の穴の太さは一定なので、本当は、出やすい音と出にくい音があります。出やすい音はどれでしょう。ファ、ヤソの音が出やすかったですか？ 本当のオルガンでは、パイプの太さは一本ごとにより、一番なりやすいようになっています。